

## 海外安全対策情報（令和元年度第1四半期）

### 1 社会・治安情勢

パラナ州公安局発表によるクリチバ市の2017年の殺人件数は379件で、件数、殺人率共に依然として高い数値で推移している。2017年クリチバ大都市圏での殺人件数は900件、10万人あたりに換算すると27.4件、世界保健機構が許容範囲としている殺人件数（10万人あたり10件）の約3倍。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）クリチバ市及び大都市圏では近年、誘拐、ATM爆破強盗、携帯電話販売店や薬局店、レストラン及び住居を狙った武装強盗、運転中及び停車中を狙った車両強盗、武装集団による長距離バス及び路線バス内強盗が多発している。時間帯、場所を問わず銃器を使用した犯罪が増加しており、十分な注意が必要である。渡航情報（危険情報）については、パラナ州クリチバ大都市圏は「十分注意してください」を継続中。

（2）パラナ州西部に面する隣国との国境地帯（特にパラグアイ）からは頻繁に大麻等の麻薬類及び銃器類の密輸が行われており、軍警察による押収量は増加する一方である。近年、パラナ州は麻薬の搬入ルートのみならず麻薬消費地域となっており、麻薬絡みの犯罪も増加傾向にある。

### 3 犯罪事例（4月～6月）

（1）4月8日（月）19時10分頃、クリチバ市アルトボケイラオン地区で25歳男性が射殺された。この事件は同日に発生した2件目の殺人事件で、もう一件は17時40分頃、クリチバ市サンタカンジダ地区で21歳男性が少なくとも35発の銃弾に撃たれ殺害された。

（2）4月10日（水）午後、クリチバ市内プラドヴェーリョ地区セルジオドゥデック通りで、41歳男性が射殺された。現場は私立大学付近であった。14時15分頃、軍警察官が現場へ到着したとき、被害者は運転席と助手席のドアが開けられた車の横に横たわり、毛布が掛けられていた。警察の調べによると、犯人は1人～3人の男性で、黒いフード付きの服を着ていた。被害者は少なくとも30発以上拳銃で撃たれており殺人目的の犯行とみている。警察は麻薬絡みの犯行かどうか捜査中である。

（3）4月25日（木）朝、クリチバ市セントロシビコ地区カンディドデアブレウ通りで、ホームレス同士のトラブルがあり、37歳女性が刺された。当時、被害者女性は一ヶ月前に知り合い付き合っていた男性と一緒にいたが、同男性は犯人では無いと否定した。同男性は、被害者女性は別の男性と口論になり、その男性が刃物を持って彼女の上

に馬乗りになったので、引き離そうとして自分も怪我をしたと説明した。被害者女性に命の別状は無かった。

(4) 5月9日(木)午前、クリチバ市プラドヴェーリョ地区ブラジリオイチベレー通りで、2人の男性が車両を盗もうと強盗していたところ、非番中の警察官が見つかり犯人に抵抗しないよう呼びかけたが、従わなかったため発砲した。銃弾は犯人2人の内1人に命中し即死し、もう1人は逃走した。

(5) 5月20日(月)早朝、クリチバ市セントロシヴィコ地区エウクリデスバンデイラ通りとリシマコフェヘイラコスタ通りの交差点で、35歳男性が刃物で刺され病院へ搬送された。警察の調べによると、現場は普段から麻薬常習者が集まっている場所で、今回の事件も麻薬常習者が絡んでいる可能性があるともみても捜査している。

(6) 6月14日(木)午後19時頃、クリチバ市セントロ地区リアシュエロ通りで、26歳男性が歩いていると、男が近付いてきて携帯電話を渡す様要求してきた。被害者男性は抵抗したところ腹部を刺された。被害者男性は通りかかった車に助けを求め、運転手は被害者が負傷していることに気づき救急車を呼んだ。

(7) 6月24日(月)夜、クリチバ市内で軍警察官と刑務所からの逃亡犯2人組との銃撃戦があった。逃亡犯2人組はカジュル市で車を盗み、軍警察官に追われながらクリチバ市へと逃走してきた。逃亡犯2人組は軍警察官に包囲され銃撃戦となり、1人は逮捕されたが、もう1人は逃走した。軍警察官は追跡を続けたが、犯人の撃った弾丸が軍警察官1人の腕に命中し負傷した。犯人は女性2人の乗った車に無理矢理乗り込み逃走を続け民家に逃げ込んだ。そこで再度軍警察官と銃撃戦になり、犯人は射殺された。